

週間情報



No.0340

発行日 令和3年11月9日 発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担 当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 警防技術交換会を実施

富山県消防長会

富山県消防長会では、令和3年10月19日(火)、富山県広域消防防災センターの訓練施設を活用し、警防技術交換会を実施しました。

これは、県下消防本部の災害対応力及び警防技術の向上を図る目的で、火災を想定した先着隊の部隊活動を実施したものです。

当日は、県内7消防本部(局)、全26消防署(132名)が参加し、木造一般住宅または鉄骨造共同住宅のどちらかの建物で火災が発生したという想定で、開始直前まで出火建物と詳しい想定内容をブラインドにした形で実施しました。



【木造一般住宅火災を想定した活動の様子】



【鉄骨造共同住宅火災を想定した活動の様子】

消防本部の動き

訓練・演習

◆ 集団災害対応訓練を実施

豊川市消防本部(愛知)

豊川市消防本部では、令和3年10月11日(月)、管内の保育園の協力を得て、集団災害対応訓練を実施しました。

これは、近年多発している通学中の歩行者の列に車が突入する事故を受け、対応力向上や小児に対してのトリアージ方法を確認することを目的に実施したものです。

訓練に参加した保育士と園児の合計16名は、隊員が声をかけても倒れたまま動かない、泣いて助けを求めるなど、災害現場を彷彿とさせる演技をして隊員を驚かせました。

本訓練を実施したことで、集団災害対応の基本手順を確認するとともに、小児に対してのトリアージの難しさを実感することができました。

今後も、集団災害対応訓練を継続し、さまざまな場合を想定して対応力向上に努めてまいります。





【訓練の様子】

◆ 広島県防災航空隊と連携訓練を実施

三原市消防本部(広島)

三原市消防本部では、令和3年10月11日(月)、管内の山中及び場外へリポートにおいて、 広島県防災航空隊と連携訓練を実施しました。

これは、林野火災発生時に同航空隊との連携体制の確立を図り、延焼状況の情報収集及び安全・ 確実な要救助者の救助が実施できるよう計画したものです。

当日は、航空隊の上空偵察による情報の収集、収集した情報に基づく地上隊の放水活動、負傷者の吊り上げ救助、航空機離着陸時の誘導を実施しました。

本訓練を実施したことで、林野火災発生時に必要となる情報収集、山中での放水活動、要救助者の救出、航空機離着陸時の誘導の要領を確認できました。

今後も、継続的に連携訓練を実施し、安全・確実・迅速な災害対応ができるよう努めてまいります。





【訓練の様子】

◆ 解体予定の旧三春町役場で救助訓練を実施

郡山地方広域消防組合消防本部(福島)

郡山地方広域消防組合消防本部では、令和3年10月13日(水)、14日(木)の2日間、解体予定の旧三春町役場で救助訓練を実施しました。

その内容は、大規模地震による建物倒壊を想定し、壁や床をエンジンカッター、チェーンソー、 削岩機などの資機材で破壊する訓練を実施しました。

実際の建物を使用することで、建物構造に応じた使用資機材や破壊方法の選定を行うなど、知識や技術の向上を図ることができました。

今後も、あらゆる災害に対応できるよう訓練を継続し、現場対応力の充実強化を図ってまいります。





【訓練の様子】

◆ 災害救助訓練を実施

草加八潮消防局(埼玉)

草加八潮消防局では、令和3年10月14日(木)、災害救助訓練を実施しました。

これは、新型コロナウイルス感染症の拡大により大規模訓練が中止となったことから、同訓練で使用する予定であった訓練資材を有効活用するために計画したものです。

当日は、地震により建物が崩落し、複数の要救助者が地下に取り残されているという想定で、 実践的な訓練を実施しました。

本訓練を通じて、所属の異なる2隊の救助隊の連携を深めるとともに、救助に関する技術及び知識の向上を図ることができました。

今後も、さまざまな災害に対応できるよう訓練を重ねてまいります。





【訓練の様子】

◆ VR防災体験車を用いた防火防災訓練を実施

東京消防庁 (東京)

東京消防庁深川消防署では、令和3年10月14日(木)、管内の大型商業施設であるアーバンドックららぽーと豊洲の協力を得て、VR防災体験車を用いた防火防災訓練を実施しました。

この訓練は、令和3年10月7日(木)に発生した千葉県北西部を震源とする地震により東京地方で最大震度5強を記録したことを踏まえて実施したものです。

当日は、同施設の来場者に対してVR防災体験車を用いた防災体験を実施するとともに、「家具転対策ハウス」を用いた振り返り訓練を実施しました。

この地域は、タワーマンションなどの大規模共同住宅にお住まいの方が多いため、「高さのある 家具だけでなく低い家具もしっかり止めましょう。」などと呼び掛けました。

来場者からは、「先日の地震では物が落ちるなど、身の危険を感じました。VRで震度7のリアルな揺れを体験し、地震にも耐えられる安全な室内作りが重要だと強く感じました。」などの感想もあり、関心の高さがうかがえました。



【「家具転対策ハウス」を用いた振り返り訓練の様子】

◆ 栃木県消防防災航空隊と合同で大規模林野火災連携訓練を実施

芳賀地区広域行政事務組合消防本部 (栃木)

芳賀地区広域行政事務組合消防本部では、令和3年10月15日(金)、益子町にある大郷戸ダムにおいて、栃木県消防防災航空隊と合同で大規模林野火災連携訓練を実施しました。

この訓練は、令和3年2月に同県足利市で発生した大規模林野火災を教訓に、迅速な初動体制の確立及び同航空隊との連携強化を目的として計画したものです。

当日は、キャンプによるたき火が原因で火災が発生し、林野に延焼拡大したという想定で、可搬ポンプとポンプ車の連携及び防災へリコプターへの給水などを確認しました。

また、訓練には、益子町消防団も参加したことで、消防団との連携強化も図ることができ、大変有意義なものとなりました。

今後も、住民の安心・安全のため、訓練を重ねてまいります。





【訓練の様子】

◆ ヘリコプターと連携した消防・警察合同の山岳救助訓練を実施

蒲郡市消防本部 (愛知)

蒲郡市消防本部では、令和3年10月15日(金)、管内にある五井山において、蒲郡警察署、愛知県警航空隊及び愛知県防災航空隊と合同で山岳救助訓練を実施しました。

これは、関係機関との連携強化を図る目的で実施したものです。

訓練は、登山中に地震が発生し、複数人が負傷したという想定で、要救助者の捜索からヘリコプターによる救出・搬送までの一連の流れを実施しました。また、災害規模に応じて複数のヘリコプターが出動することを想定し、2機のヘリコプターを同じグラウンドに着陸させる誘導も実施しました。

今後も、関係機関との合同訓練を継続し、現場活動が円滑に実施できるよう、災害対応力の向上に努めてまいります。





【訓練の様子】

◆ 関西電力送配電株式会社と合同で電気事故対応訓練を実施

東大阪市消防局(大阪)

東大阪市消防局では、令和3年10月13日(水)から15日(金)までの3日間、関西電力送配電株式会社と合同で電気事故対応訓練を実施しました。

これは、市内にある同社の訓練場所をお借りし、当消防局の救助隊と同社の社員職員がお互いの知識・技術を共有する目的で実施したものです。

内容は、同社の社員職員から架空設備等に関する説明を受けたほか、柱上の作業員が感電して動けないという想定で救出訓練を実施しました。

本訓練を通じて、高所や感電のリスクを踏まえた救助スキルを養うことができました。

今後も、電気事故への対応力を強化するため訓練に励み、安全で円滑な活動を目指してまいります。



【訓練の様子】

◆ 警防技術指導会を実施

今治市消防本部 (愛媛)

今治市消防本部西消防署では、令和3年10月13日(水)から15日(金)までの3日間、12隊約50人の隊員を対象に、警防技術指導会を実施しました。

これは、火災における一連の部隊活動を実施した後、その活動を検証・評価することで、知識・技術の向上を図る目的で実施したものです。

活動内容は、「一般建物火災の1階に要救助者あり」という想定で、出場時の防火衣と空気呼吸器の着装から車両の運行、要救助者の検索救助、梯上での放水までの一連の流れを実施しました。

今後も、各隊員が基本技術や知識を習得し、部隊として安全・確実・迅速に任務を遂行できるよう 邁進してまいります。





【訓練の様子】

◆ 日本体育大学の学生に流水救助技術を指導

山口市消防本部(山口)

山口市消防本部では、令和3年10月16日(土)から18日(月)までの3日間、日本体育大学保健医療学部救急医療学科の学生10名を受け入れ、流水救助技術を指導しました。

これは、救急救命士を目指す同学科の学生が、救助に関する知識と技術を学ぶことを目的として行う実習を当消防本部が引き受けたもので、流水救助に係る座学をはじめ、器具の取り扱いや救助手法の実技を指導しました。

学生は、実習72時間前のPCR検査、毎日の抗原検査、実技訓練中以外のマスク着用など、感染防止対策を徹底した上で参加しました。

実習終了後、学生からは、「救助の難しさを肌で感じた。」、「助けを求める人の気持ちが分かった。」などの声が聞けました。また、指導した職員からも、「消防を目指す学生と触れ合うことで、改めて自分の仕事に誇りを感じた。」などの感想もあり、双方にとって大変有意義な実習となりました。



【座学の様子】

【実技の様子】

◆ 石橋地区消防組合消防本部と合同で土砂災害を想定した活動展示を実施

宇都宮市消防局(栃木)

宇都宮市消防局では、令和3年10月19日(火)、栃木県消防学校において、石橋地区消防組 合消防本部と合同で土砂災害を想定した活動展示を実施しました。

これは、栃木県消防学校専科教育救助科のカリキュラムの一環として実施したもので、緊急消防援助隊栃木県隊として出場した際の土砂災害活動を展示したものです。

当日は、情報収集活動用ドローンによる情報収集及び現場広報、ゾンデ棒による検索、重機による土砂の除去を経て、埋没した要救助者の救出までの一連の流れを展示しました。

この活動展示を通じて、相互の連携強化を図ることもできました。

今後も、他の消防本部との訓練や協議を積極的に行い、さらなる連携強化に努めてまいります。





【訓練の様子】

◆ 若手職員を対象とした警防技術確認訓練を実施

印西地区消防組合消防本部(千葉)

印西地区消防組合消防本部では、令和3年10月19日(火)、20日(水)の2日間、若手職員を対象とした警防技術確認訓練を実施しました。

これは、若手職員の活動能力向上を目的として毎年実施しているもので、今年で6回目となります。

訓練には、拝命後10年未満の隊員が、2日間合計55名参加しました。

内容は、消防活動の基本となる、防火服や空気呼吸器の着装、ロープ結索、ホース延長を実施し、その安全・確実・迅速性を確認するというものです。

本訓練に向けた事前訓練などでベテラン職員から指導を受ける機会もあり、署内のチームワークを高めることにもつながっております。

今後も、本訓練を継続して実施することで若手職員の育成を図り、消防活動の充実強化を目指してまいります。





【訓練の様子】

研修等

◆ データを活用した統計研修を実施

高山市消防本部(岐阜)

高山市消防本部では、令和3年10月14日(木)、岐阜薬科大学から講師を招き、データを活用した統計研修を実施しました。

研修では、消防・救急業務に関して統計学 (データ解析) を利用することで、そのデータを可視 化することの有用性を学んだほか、データ取扱上の注意点を学びました。また、当消防本部の救 急統計を利用した演習では、統計学的方法の一つである仮説検定(ある仮説について確率を判断 する方法) や表計算ソフトのグラフ機能による可視化を体験しました。

今後は、統計学を利用して能力を向上させ、業務の効率化、その時々の社会情勢やニーズへの 対応を図れるよう努めてまいります。





【研修の様子】

◆ 女性消防吏員活躍推進研修会を開催

直方‧鞍手広域市町村圏事務組合消防本部(福岡)

直方・鞍手広域市町村圏事務組合消防本部では、当消防本部初となる女性消防吏員を採用したことから、令和3年10月14日(木)、女性消防吏員活躍推進研修会を開催しました。

研修会では、講師としてお招きした女性消防吏員活躍推進アドバイザーの久恒衛氏(福岡市消防局)から、男性が多数を占める中で女性が活躍できる職場環境の整備について講義いただきました。また、各種ハラスメントについても講義いただき、職員一人一人が普段の言動等を振り返る大変良い機会となりました。

今後も、女性消防吏員の活躍推進のため、職場環境づくりに取り組んでまいります。





【研修会の様子】

◆ メンタルヘルス研修を開催

千葉市消防局(千葉)

千葉市消防局では、令和3年10月15日(金)、WEBと対面のハイブリッド形式によるメンタルヘルス研修を開催しました。

これは、職員のメンタルヘルス対策を強化することで、組織の活性化や業務効率の向上につながることを目指して開催したものです。

当日は、株式会社メンタルヘルステクノロジーズ代表取締役社長の刀禰真之介様を講師にお招きし、「職員の心を守る組織について」という題目で、講義していただきました。

今後も、職員の心の健康を増進するため、働きやすい職場環境づくりを目指してまいります。





【研修の様子】

◆ 女性消防吏員活躍推進アドバイザー講演会を開催

敦賀美方消防組合消防本部(福井)

敦賀美方消防組合消防本部では、令和2年度に初めて女性消防吏員を採用したことから、令和3年10月18日(月)、女性消防吏員活躍推進アドバイザー講演会を開催しました。

当日は、総務省消防庁の女性消防吏員活躍推進アドバイザーである濵輝香氏(海南市消防本部)を講師としてお招きし、職員約50人が受講しました。

講師には、これまでの経緯、広く活躍していく上での問題点、ハラスメントの防止、採用促進に向けた方策など、ご自身の経験を交えた貴重なアドバイスをいただきました。

女性消防吏員の活躍は、住民サービスの向上とともに組織の活性化にもつながることから、今後も、職員の意識改革をはじめ、一人一人が効率的に働ける職場環境づくりに努めてまいります。





【講演会の様子】

その他

大阪市消防局 (大阪)

大阪市消防局では、令和3年10月18日(月)、「放置ボンベ撲滅週間」ポスター作品の表彰式 を実施しました。

これは、府内のデザインに関係する専門学校等を対象に行っていた「放置ボンベ撲滅週間」(10月23日から10月29日まで)のポスターデザイン募集において、最優秀作品に選ばれた作者の徳永菜都美様に対し、小西消防局長が表彰状を贈呈したものです。

府内の消防本部では、放置ボンベによる事故をなくすため、「高圧ガス保安活動促進週間」に併せて同期間を「放置ボンベ撲滅週間」と定め、府民や高圧ガスを取り扱う事業者に対して毎年、広報活動を実施しています。

ポスターデザインは、多数の応募の中から、デザイン性とアピール性を基準に、府内の消防本部の投票により最優秀作品を選出しました。

今後も、「放置ボンベ撲滅」の徹底を図り、市民の安心・安全な暮らしにつなげることができるよう努めてまいります。



【表彰式後の記念撮影】



【放置ボンベ撲滅週間ポスター】

◆ 人命救助活動功労者に表彰状を贈呈

天草広域連合消防本部(熊本)

天草広域連合消防本部では、令和3年10月18日(月)、2つの事案の人命救助活動功労者に対し、消防長から表彰状を贈呈しました。

1事案目は、令和3年10月3日(日)、堤防上から誤って海中に転落した釣り客に対し、近隣住民2名が協力して近くに留めていた漁船を出航させ、船内に救出したものです。

2事案目は、令和3年10月4日(月)、管内で発生した建物火災において、早期に火災に気付いた近隣住民が、火災建物内で就寝中の住民1名を発見し、安全な場所へ背負って救出したものです。

それぞれの方の積極的で的確な勇気ある行動が、尊い命を救いました。



【表彰状贈呈後の記念撮影 (1事案目)】



【表彰状贈呈後の記念撮影 (2事案目)】

◆ 防火・防災ポスターコンクールの表彰式を開催

小樽市消防本部 (北海道)

小樽市消防本部では、令和3年10月14日(木)、防火・防災ポスターコンクールの表彰式を 開催しました。

これは、市内の小中学生を対象に行っていた防火・防災ポスターコンクールの受賞者に対して 表彰状と副賞を授与したもので、今年は、70作品の応募の中から15作品が、小樽市消防長賞 などの各賞に選ばれました。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策として、今年2月に完成した小樽市消防署手宮支署の 車庫内で表彰式を開催し、参加した12名には表彰式に先立ち消防車両や庁舎内を見学していた だきました。



【表彰式の様子】



【表彰式後の記念撮影】

◆ 福岡市西消防少年団「おさんぽDIG」を実施

福岡市消防局(福岡)

福岡市消防局では、福岡市西消防団の協力のもと、令和3年10月16日(土)、福岡市西消防 少年団金武地区隊17名による「おさんぽDIG」を実施しました。

この「おさんぽDIG」は、感染防止対策に留意することでコロナ禍でも実施できる活動のモデルケースとなるよう、初めて実施した取り組みです。

その内容は、同少年団が歩き慣れた校区内をおさんぽしながら、防災に関する気づき (災害危険箇所等)をマップに書き込み、完成した地図を発表するというものです。

おさんぽ中、指導員である消防団員から適宜、子どもたちの気づきを引き出すヒントを与えました。持ち帰った気づきをまとめた地図は、子どもたちの個性が光る作品となりました。

また、参加した子どもたちから「楽しかった。」という感想も聞くことができ、楽しみながら身近に存在する災害危険箇所を発見することができる大変有意義な活動となりました。





【おさんぽDIGの様子】

消防学校からの便り

◆ 宮城県で初の通信指令員教育講習を実施

宮城県消防学校

宮城県消防学校では、令和3年10月20日(水)から22日(金)までの3日間、時間数21時間の日程で、通信指令員を対象とした宮城県で初の通信指令員教育講習を実施しました。

この教育は、総務省消防庁が定める消防防災科学技術研究推進制度(※1)において、平成27年度に通信指令専科教育導入プロジェクトが立ち上げられ(帝京大学が研究を受託)、その研究内容(※2)の趣旨と県内消防本部からのニーズが合致したことから計画したものです。

教育期間内には、同プロジェクトチームのメンバーで、京都橘大学健康科学部専任講師の北小屋裕様、県ドクターへリフライトドクターである仙台医療センター救命救急部長の山田康雄様及び仙台市消防局指令課の金子照様を講師として招聘し、「通信指令員専門教育の意義」、「緊急度・重症度判定」、「通報対応訓練」などの実践に即したさまざまな内容の講義及び訓練を展開しました。

入校した20名すべての学生がこの教育の必要性を理解し、習得した知識・技術を各所属へ持 ち帰って県内の通信指令業務の底上げに尽力することを期待しています。

今後も、「宮城の安全・安心を担う真の消防人の創造と地域防災力の向上」をテーマに責務を全 うしてまいります。

※1 消防防災科学技術研究推進制度(平成15年度創設)

公募の形式により消防機関が直面する課題の解決に向けて、高い意義が認められる提案者に対して研究を委託し、国民が安心・安全に暮らせる社会を実現するもの。

※2 通信指令専科教育導入プロジェクト

119番通報を受けた際、通信指令員が口頭指導等や緊急度判断などの対応を適切に行えるよう、国内・国外の先進事例を検討し、通信指令員の専科教育モデルの開発、必要な機器の検討を行う。さらに、指導者要請のためのテキストを作成した上で、消防学校、救急救命士養成校等で実地検証を行い、問題点や課題を検討した上で、専科教育のモデルを提言する。



【座学の様子】



【訓練の様子】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律施行令附則第三項の表PFOS又はその塩の項に規定する消火器、消火器用消火薬剤及び泡消火薬剤に関する技術上の基準を定める省令の一部を改正する省令の施行に伴う留意事項について(通知)

(消防消第412号、消防予第522号、消防危第234号、消防特第207号、令和3年10月22日)

消防庁消防・救急課長、予防課長、危険物保安室長、特殊災害室長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律施行令附則第三項の表PFOS又はその塩の項に規定する消火器、消火器用消火薬剤及び泡消火薬剤に関する技術上の基準を定める省令の一部を改正する省令(令和3年総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、防衛省令第1号。以下「省令」という。)が令和3年9月21日に公布され、同年10月22日に施行されることとなりました。

一以下省略一

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/211022 syoukyu yobou kiho tokusai.pdf) に掲載されています。

情報提供

◆ 令和3年度防災啓発中央研修会の開催について

一般財団法人消防防災科学センター

消防防災科学センターでは、社会、経済環境の多様化に伴う災害の要因の複雑化、被害増大の傾向に対応し、消防防災関係者等に対して広く防災に関する知識の普及に努め、地域の防災力の向上を図ることを目的とし、令和3年度防災啓発中央研修会を次のとおり開催します。

1 開催日時 2021年12月2日(木)、12月3日(金) 午後1時~午後4時30分

2 開催方法 オンラインによるライブ配信方式 (ZOOM Webinar)

3 受講対象者 都道府県、市町村及び消防本部等の職員並びに一般住民(定員1,000名)

4 受講料 無料

5 申込方法 消防防災科学センターの市町村防災研修ホームページ「中央研修会のご案内」

よりお申込み込ください。(http://www.bousai-kensyu.com/chuo_oubo/)

6 申込期限 11月30日まで(定員になりましたら申込み終了となります)

受付が完了された方には、研修会の数日前に「リマインド(招待)メール」により視聴用URLが送信されます。研修会当日、この視聴用URLを用いて「研修画面」を開くことにより、ご視聴いただけます。

7 プログラム

●12月2日 (木)

 $13:00\sim13:10$ あいさつ

荒川 敦(一般財団法人消防防災科学センター理事長)

13:10~14:10 大規模災害に備えた消防防災体制の拡充・強化(仮題)

荻澤 滋(総務省消防庁国民保護・防災部部長)

14:20~15:20 近年の震災に学び大規模地震災害に備える(仮題)

山岡 耕春(名古屋大学環境学研究科地震火山研究センター教授)

15:30~16:30 新型コロナ禍における避難所運営(仮題)

榛沢 和彦 (新潟大学医歯学総合研究科特任教授)

●12月3日(金)

13:10~14:10 土砂災害への防災対策(仮題)

西 真佐人(砂防フロンティア整備推進機構上席研究員)

14:20~15:20 近年の豪雨災害の教訓と激甚化する水害への備え(仮題)

池内 幸司(東京大学大学院工学系研究科教授)

15:30~16:30 気象予報と災害(仮題)

太田 景子(気象予報士)

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

- ①トップ・セカンド記事
- ②知識・技術の伝承—教えて!消防技術—
- ③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報(No.0 3 1 4) 1 ページ、機関誌「ほのお」 2 0 2 1 年 4 号 (4 / 2 5 発刊) 2 5 ページ又は 5 号 (5 / 2 5 発刊) 3 0 ページを参照願います。

TEL: 03-3234-1321 機関誌「ほのお」担当:企画課 菅原原稿データは、kikachosei@fcaj.gr.jpに送信願います。

4消防ワイド

- ・文章は、Wordで150文字以内で作成をお願いします。
- ・写真は、Word に貼り付けず、JPEG 画像データを 1 枚送付してください。 <u>TEL: 03-3234-1321</u> 機関誌「ほのお」(消防ワイド) 担当:企画課 菅原 原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ!

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

記事の投稿に関する注意点

- ・配信日(原則火曜日)に近い時期のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200~400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、 $1 \sim 2$ 枚を Word に貼り付けて送付してください。 (貼り付けできない場合は、JPEG 画像データを送付してください。)
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。

<u>TEL:03-3234-1321</u>「週間情報」担当:企画課 浅倉 原稿データは、weekly@fcai.gr. jp に送信願います。